

分担金・拠出金の名称	国連人道問題調整事務所（OCHA）拠出金	評価	B
拠出先の国際機関名	国連人道問題調整事務所（OCHA）		
国際機関の概要	大規模自然災害・紛争等が発生した際に、各種支援機関が、活動の偏り及び重複を避けつつ効果的に活動できるよう、被害状況・支援ニーズの把握や国際社会へのアピール発出を含む、国際人道支援活動の総合調整を行っている。具体的には、（１）現地における国際人道支援活動の総合調整、（２）人道支援分野における問題提起・理解促進、（３）国際社会へのアピール発出、（４）タイムリーな被災地等の情報収集・発信、（５）中央緊急対応基金（CERF）の管理運営等。		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
1.（１）成果目標：我が国重要外交政策の遂行におけるパートナーシップの強化。 活動指標：我が国の重要外交政策（人道支援、防災、女性支援）への貢献		・OCHAは、シリア、南スーダン、イラク等の紛争やフィリピンやネパールにおける自然災害など大規模人道危機における人道支援の総合調整を実施。我が国が重視する人間の安全保障を実現するため人道支援や国際緊急援助活動の円滑な実施に貢献。また、被災国の緊急対応や災害事前準備能力の強化など、防災の主流化においても重要な役割を果たしている。 ・OCHAは、国連事務総長のイニシアティブで2016年5月に開催される世界人道サミットの事務局を務めており、2014年には東京で地域準備会合を日本と共催するなど、国際的な人道支援の政策決定や議論に我が国意見を反映させる上でも有意義な連携が図られている。 ・OCHAのトップは、人道支援に関する政策や戦略的決定等を行う人道機関間常設委員会（IASC）の議長を務めている。同委員会によりジェンダー主流化を促進するためのモニタリング指標やガイドライン等が策定されており、日本が重視する女性支援の推進にも貢献。	
（２）成果目標：OCHAにおける我が国の発言力を確保する 活動指標：OCHA（国連人道問題調整事務所）ドナー・サポート・グループ会合や我が国とのハイレベルにおける意見交換		・OCHAの組織運営や財政管理について議論するOCHAドナー・サポート・グループ会合や人道支援の在り方について議論する人道作業部会等を通じ、OCHAの政策立案、活動実施面で発言力・影響力を確保している。 ・OCHAのトップである人道問題担当国連事務次長（2014年7月）や定期的な地域事務所長等の訪日を通じて我が国意見をOCHA事業に反映させている。	
（３）成果目標：効率的な組織・財政管理の実現 活動指標：具体的な資金運営改善措置の導入		・OCHAは、2年毎の包括的なパフォーマンス評価に加え、分野別の政策・パフォーマンス評価を実施しており、評価を踏まえ、政策や組織体制の見直しを行っている。 ・国連統一アピールにおけるニーズ分析の充実を図るとともに、プログラム・サイクルに沿った事業計画の策定やモニタリング体制の構築等の改善を図るなどして、活動の効率性・効果の向上に努めている。我が国は、毎年回実施しているドナーによるOCHAのフィールド・パフォーマンス調査に参加し組織・財政管理体制の改善に貢献している。	
（４）成果目標：邦人職員増強を図る 活動指標：邦人職員の強化への取組		・OCHAの日本人職員数（専門職以上）は、2012年の9人から、2013年に10人、2014年には11人に増加。 ・OCHAは、2013年及び2014年に日本に派遣された国連主催の国際機関合同アウトリーチミッションに参加するなど、邦人職員増強に向けた具体的取組を実施。	
2. PDCAサイクルの確保		①計画段階（Plan）：我が国の関連政策（「経済財政運営と改革の基本方針2014について」）や国連統一アピール等に照らしつつ、予算要求。 ②実施段階（Do）：予算拠出。OCHAドナー・サポート・グループ会合、ハイレベルを含む不定期の協議を通じて、OCHAの活動をモニタリング。 ③評価段階（Check）：OCHA年次報告書、国連会計監査委員会による外部監査報告書、OCHAドナー・サポート・グループによるフィールド・パフォーマンス調査（年1回）等により成果を評価。 ④フォローアップ（Act）：OCHAドナー・サポート・グループ会合（年1回のハイレベル年次会合及びNY・寿府における2ヶ月毎の実務者会合）やハイレベルを含む各種協議等の機会を通じ、必要に応じ改善を図っている。	
担当課・室名	国際協力局 緊急・人道支援課		